

さくら

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） 取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			1 ~ 5 (自己 1~24・外部 1~14)	自己評価24項目・外部評価14項目	15	
理念に基づく運営	1 理念の共有(自己 1~3・外部 1~2)			自己評価3項目・外部評価2項目	1	
	1 理念の共有	1 外部評価1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたに寄り添ったあなたらしい暮らしを」	0	
		2 外部評価2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「さざん家は暖かい手で、温かい目線で、柔らかい言葉で、和やかな態度で接します」というスタッフの日々の実践目標がある。	1	スタッフミーティングにおいて、理念に沿った介護を実践しているか、カンファレンス等を行い実践している。
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月発行している「さざん家だより」には必ず掲載し、町内会に回覧している。	0	
	2 地域との支え合い(自己 4~6・外部 3)			自己評価3項目・外部評価1項目	3	
	2 地域との支え合い	4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	年に数回の大きな行事には必ずご近所にお知らせし、お誘いをしている。入居者の散歩をよくするので、散歩中に行き会った人には挨拶や会話をするように心がけている。近所の方から野菜を貰うといった近所付き合いがある。また、畑作業や庭木の手入れの手伝いをしてくれる人もある。	1	昨年の夏祭りには、親子連れや、高齢者が参加してくれた。その人たちがクリスマス会も参加してくれるようになった。
5 外部評価3		地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年の町内会文化祭に利用者とスタッフの踊りと歌で参加。また、回覧板に「さざん家だより」を毎月載せてもらっている。隣組に入会しているのので、一斉清掃には元気な入居者と共に参加、草取りをしている。	1	今年は、サザンクス小ホールで筑後市GH協議会として介護の日イベントを予定しているが、参加する予定である。詳細は未定。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地域 え合 といの	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年の介護の日にさざん家内で、簡単な介護技術の講習会（実演、伝授）を開いた。	1	今年から近所の高齢者を誘って、スタッフがハーモニカ教室をスタッフ休憩室で週に1回開いている。
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	1	
	3 理念を 実践 する た め の 制 度 の 理 解 と 活 用	7 外部 評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年自己評価表をスタッフ全員に渡し、それぞれのさざん家評価をして貰い、外部評価の意義、具体的な意識づくりを目指した。	0	
		8 外部 評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議では出席者からの意見・提案などを頂き、即答できない場合は次回までの宿題に、また次で解決できないような提案は状況報告し、早期に報告できるように努力している。また評価の報告は必ずしている。	0	
		9 外部 評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	筑後市GH協議会を毎月開催し、問題提起や解決に話し合いを持っている。そして協議会として市役所への要望等を伝えている。また「筑後市2015年の高齢者福祉を考える委員会」に管理者が委員として出席している。	0	
		10 外部 評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	契約時に必要と思われる人にはパンフレットを見せて説明し、コピーを渡している。	1	権利擁護や成年後見制度を利用している利用者はいないが、必要な場合に備えてパンフレットを常備している。
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月刊誌福祉ニュースに虐待に関する記事が掲載されている時は、特に、スタッフに読むように伝えている。昨年のスタッフミーティング時に市役所の係長に講習して貰い、スタッフミーティング時に気になる案件はその都度話し合うようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	4		理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	5	
理念に基づく運営		12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明している。またお支払いを受ける時や、面会時にはいつでも不安・疑問などの相談を受ける旨の説明をしている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症高齢者の利用者である為、スタッフに申し出ができませんと考え、日常の顔色、態度などの変化を把握するよう注意している。合同レクをする時もあるのでユニットに関係なくスタッフは観察し、当該ユニットスタッフに伝える事になっている。また家族からも出来るだけお聞きしている。	1	静かな利用者が多い為、スタッフが利用者の立場になったと考えて、お互いに注意しあっている。
	4	14 外部 評価 8	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりが分かる写真を掲示。また毎月の請求書と一緒にさざん家日より、本人の写真を添付した個人たよりを送付している。預かっている小口現金については年に2回の承認をしてもらっている。異動は来所時分かるように玄関に貼り出し、また各利用者の担当者は家族の面会時に出勤している時は必ず会話するようにしてい	1	健康状態の心配な利用者があるので、ご家族から問い合わせがなくても、定期的に報告の電話を入れていた時がある。
		15 外部 評価 9	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に2回、夏と冬の行事前後に開催。家族会では家族だけの話し合いを原則とし、不満や苦情が出やすいように配慮している。終了後、代表から管理者かホーム長が聞いてホーム幹部会、スタッフミーティングで必ず討議している。	1	スタッフの履物について苦情が出、早速改めた。
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が生じた時やスタッフミーティング時・忘年会などの時に機会を設けるようにしている。対応できることは改善をしている。	1	話し易い雰囲気、関係作りを心がけている。
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が利用者の病状や状態を考慮し、生活の流れを支援するために、これに即したローテーションを調整し勤務を組んでいる。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に 基づく 運営	4 理念 ため の実 践制 す	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの為、スタッフ異動は半年に1度しているが、普段相互の利用者に声掛けを心がけているので問題ないと思われる。しかし、利用者が顔を覚えられような期間を1ヶ月とし、馴染し期間としている。	1	名札を大きく表示して覚えて貰えるようにしている。
		5 人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)			自己評価6項目・外部評価4項目	5
	5 人材 の育 成と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	もともと性別や年齢等を理由に排除していない。スタッフの能力を活用し生き生きと勤務して貰う事は事業所にもメリットになる。資格取得や、社会参加にも配慮してローテーションを組んでいる	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	採用時の研修期間や、年間を通じてのスタッフ勉強会内容にも必ず入れるようにしている。	1	不適切な入居者に対する言動は、厳重に注意、指導している。
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内や、出来るだけ参加するように伝えている。	1	介護福祉士を受験できる対象スタッフには出来るだけ資格を取るよう働きかけをし、昨年度は3名受験した。
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	筑後市GH協議会を19年度に設立、研修会等を開催している。またスタッフ交流会を昨年は1回、今年は2回開くことにしている。	1	相互訪問はなかなか難しい面があるが、出来るGHからしたいと思っている。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	さざん家でソフトバレーチームを結成、毎週練習し試合にも参加している。試合に参加の場合はローテーションを配慮。また懇親会として昨年はボーリング大会を、今年は食事を予定している。施設から離れた駐車場にスタッフルームを設置している。	1	短時間ではあるが、施設から離れることは良い事だと考えている。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人材 支援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来るだけ将来に役立つような資格を取得するように、常々口に出して話している。また、取得の為にローテーションにも配慮している。	1	防火管理者講習には今年度で正職員は全員が受講済となり、その受講済者には手当を出している。資格によって資格手当がある。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	2	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から 利用に至る までの関係 づくりとそ の対応	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)		自己評価4項目・外部評価1項目	1	
		25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	情報提供書をスタッフ全員でよく読み、また本人との事前面接に時間をかけている。入居前には、出来るだけ本人の見学を、出来ない場合はご家族の見学をしてもらうようお願いしている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの情報聴取に入居前、入居後と時間をかけて、信頼して貰える様に努力している。また、来所時には必ずホーム長・管理者・ケアマネージャー等が面談し、情報収集に努めている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に十分に話を聞いた上で、GH適応かどうかを判断している。難しい場合は精神科への受診を勧め、グループホーム対応かどうかの診断をもらうよう勧めている。またさざん家で行っている共用型認知症デイサービスの利用では、との提案をする場合もある。	1	相談した上で、共用型認知症デイサービスをまず利用されている方がいる。
		28 外部 評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がさざん家見学を必ずして貰うようにしている。もし本人が見学された場合は、お茶やおやつ、レクリエーション等を一緒にしてもらい、雰囲気馴染めるよう配慮している。家族だけの場合には、利用者やスタッフの雰囲気を特に注意して見学し、利用者が大丈夫かどうか考えて欲しいと話している。	0	
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)		自己評価6項目・外部評価1項目	1	
係り2 継続 これ な ま ま の 支 援 開 く	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは個々の生活歴を踏まえて、レクリエーションや会話に生かそうと努力している。また一緒に過ごす中に、野菜の作り方や昔の話など話して貰うこともある。また、スタッフの代わりに元気な利用者が車椅子を押したり、他の利用者の手を引いて貰ったりと助けて下さる利用者もいらっしゃる。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは家族からの本人情報を参考にしながら、支援するよう努力している。また、状態変化や病状変化は必ず連絡や報告をし、帰宅願望の強い利用者に対してご協力をお願いすることもある。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族が良い関係であることが、本人の精神安定や帰宅願望等の減少に繋がると考えている。それは、認知症の進行防止にも役立つ事だとも。利用者の家族への思いや愛情を面会時にご本人に代わって伝え、反対に、家族からの思いや愛情を利用者に機会あるごとに話して、より良い関係が維持できるように努めている。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊・外出がなかなか実現できない事があるので、面会を待っている事や喜んでいた事を伝え、出来るだけ家族に面会に来て貰える様お願いしている。友人・知人の面会も歓迎している。	1	隣近所の方や、地域のお世話していた民生委員の方が訪問してくれる事もあるようになった。
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクレーションの時間にはスタッフが間に入り会話が续くような働きかけをしたり、座席の位置を考慮したり、コミュニケーションが取れるよう心がけている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設への転所した人も、面会に行っている。また止む無く入院した入居者には、定期的に面会に行ったりしている。	0	
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17 項目・外部評価 6 項目
	1	一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)		自己評価 3 項目・外部評価 1 項目	0	
	1	35 外部 評価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、利用者に不穏状態や状態変がある場合、朝の申し送り時やカンファレンス時お互いの意見を出し合い、希望・意向を押し量り、対応を話し合っている。また認知症である為、利用者が希望や意思を表せ難いと考え、家族から希望を聞くなどしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでほしい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1	一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書をスタッフ全員でよく読み、また本人との事前面接に時間をかけて介護の方針を検討している。	0	
			37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者毎に担当者を決め、一人ひとりのプランを管理者、ケアマネージャー等と話し合っ、都度変更している。また、スタッフ全員が参加するスタッフミーティングでも意見や提案を貰うこともある。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)		自己評価3項目・外部評価2項目	0		
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	38	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの作成には、本人・家族の希望や、担当者・ユニットのスタッフの情報を出し合い、計画作成に反映し、変更もしている。	0	
			39	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時には必ず2週間以内に計画を作成する。その後は1ヶ月、またその後の3ヶ月を目途に評価しなおす。状態の変化があればその都度スタッフで話し合い、計画の変更、見直しをしている。	0	
			40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの作成後は、ケース記録の個人記録の最初に綴じて、スタッフ全員で把握し、変化があれば話し合い変更している。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)		自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3	多機能を活かした柔軟な支援	41	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人それぞれのかかりつけ医への送迎、受診など対応している。また、医療連携医師の月2回の往診を受け、重度化しないよう看護師を職員として採用している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	2	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れ、消防署の立ち入り検査、町内会文化祭への出展・見学、大谷短大からの研修生受け入れ等を行っている。	1	大谷短大からの学生研修、専攻科研修を受け入れる研修施設として登録している。
	4		本人がより良く暮らし続けるためのケアマネジメント			
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険を利用したサービスは受けられない為、地域デイサービスのみを利用、送迎支援をしている。	1	現在、地域デイサービスを利用できる利用者が病気の為、休んでいる。
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらって、意見や提案をして貰っている。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合には、医療連携医に優先して受けることができる事を説明している。現在、医療連携医の他に、医・歯科3箇所利用中である。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携医、また精神科病院の認知症専門医の受診に、ケアマネージャーや管理者等が付き添い、説明などを受けている。	0	
	47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を常勤職員として雇用している。毎日、医療連携医と連絡し、指示を受けている。看護師が休みの場合で必要な時は、医療連携医の看護師を派遣して貰っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	本人がより良く暮らし続けるための地域の資源との協働	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	スタッフが、許される範囲での面会に努め、家族の希望、病院担当医師等の説明で退院できるような状態になった場合は受け入れている。	0	
		49 外部評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りの方針をさざん家独自で作成し、早い段階で本人や家族の意思を確認、かかりつけ医・スタッフなどで話し合いを行い態度を一致させるようにしている。また、状態変化時毎に家族・本人の意思を確認し直し、本人らしい最期を迎えられるよう、スタッフ全員で方針を共有するようにしている。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	さざん家として「出来る事、出来ないこと」をスタッフ全員で検討し、医師と早めに相談し、家族に説明・同意を貰い、変化に備えている。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には担当者間で十分な話し合いを持つようにしている。本人には納得して入居できるように、家族から説明をして貰うようお願いしている。また入居後には出来るだけ家族に面会に来て貰い、スタッフを交えて会話し、馴染めるように努めている。他施設へ転所された利用者には、他施設の許可を得て面会もしている。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価3 8項目・外部評価 1 1項目	4	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)			自己評価3 0項目・外部評価9 項目	4	
	1	(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)		自己評価3 項目・外部評価2 項目	1	
		52 外部評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフの雇用時、誓約書に署名させ、守秘義務を徹底させている。利用者一人ひとりの違いを尊重し、さりげない介助や利用者に対するの礼儀、本人の返答能力に応じた問いかけをするよう努めさせている。また本人が思い込んでいる事を否定しない対応をしている。	0	
	53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日に着る服等の選択など、何かをする場合には「・・・しますか」「・・・して良いですか」などと問いかけを行い、選択困難な利用者には「はい」「いいえ」でも意思表示ができるような言葉を使う等に努めている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や昼寝をしたり、テレビを観たりなどスタッフに余裕ある限り利用者の意思に沿うようにしている。また、就寝時間も本人に任せて早い人も遅い人もいる。朝も朝寝したい人には朝食を遅く摂ってもらったり、昼寝の人にはおやつを遅くして、夕食を軽めにするなど個人的に対応をしている。	1	深夜に目覚めた時、おにぎりを欲しがると利用者の為に、予めおにぎりを用意している。
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55～60・外部 25～26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月、訪問の理容・美容を利用し本人や家族の希望で整髪している。また、家族が髪を切られる人もいる。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、豆の莢むきをして貰ったり、畑のさつま芋掘り、じゃが芋掘り、ソラマメの収穫等をして貰っている。また、スタッフも同じテーブルで毎食一緒に食べている。茶碗拭きの好きな利用者もいるので、お願いすることもある。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は本人・家族が希望すれば提供することも出来るが、薬を服用される利用者が多い為一人だけというのは出来なくて、年に1、2回のみである。おやつは出来るだけスタッフ手作りを心がけている。飲み物も希望や好みで自由に飲んで貰っている。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握と、下着やおむつも利用者の心身状況・昼夜別に使い分けをしている。また起立訓練や下肢筋力アップなどの排泄自立に向けた取り組みを個人別に計画を立て積極的にしている	0	
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前・昼食後にバイタルチェックし入浴可能かどうかを判断している。また、本人の希望で入浴時間帯や入浴の長さ、回数などを決めている。個別入浴で、スタッフは必要な時に介助をするように見守り、ゆっくりとした入浴を心がけている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気の良い日は、お日様に当たる外気浴・散歩・外でのレクをしたりと、体内時計の調整ができるよう努めている。また自然に入眠して貰えるよう、夕食後には静かな環境作りや雰囲気作りを心がけている。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	1	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、野菜の下ごしらえ、畑や広場の草取り等と利用者の好みに応じて、さざん家の仕事を手伝って貰っている。またスタッフと一緒にカラオケ、各自に合わせた計算や数並べなどを行っている。広場でのお茶や、昼食も楽しみの一つである。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	なかなかお金に関しては問題が生じやすいので、原則、お金を所持しないように本人・家族にお願いしている。ただし、買い物にお連れして、スタッフが介助しながらではあるが、本人が支払える場合には、(本人小口現金から持ち出して)本人にレジ支払いをして頂く機会を作っている。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフが食材買い物に行く時に一緒したり、散歩は1人で、または2,3人でスタッフと一緒にではあるが日常的に行っている。またさざん家の広場で気晴らしをしたりと出来るだけ戸外の時間を持つようにしている。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と一緒に、温泉旅行に行く利用者もいる。また、自分の家を見たいと言われる利用者には車で見学につれて行ったり、ユニット別に、また2ユニット一緒に花見、おやつや外食などを行っている。	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける利用者はいない。しかし家族が同意すれば、電話は利用者が掛けたり、家族から掛けてもらったりとしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	いつでも受け入れる事を、本人や家族に話し、周囲の人たちに話してもらっている。	1	友人や近所の人を訪ねて来られる利用者もいる。	
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	1	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束をしない、出来ないことを理解し、申し合わせている。ただし本人の身体生命や他の利用者に危険が及ぶ可能性があり、他の介護方法が見つからない場合にはスタッフ・家族間で話し合い、事前に必ず家族の同意を貰い（事後である場合は説明、了承を頂く）、止むを得ず行うこともある	0		
		68 外部評価 29	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関、非常口等の出入り口には、日中施錠しない。利用者一人ひとりの習慣・行動パターンを把握し、スタッフの見守りや連携協力で鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、玄関にはチャイムや鈴で対応もしている	0		
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室のドアを開け放しにしない、利用者が在室時にドアロックをする、在室していない時でも入室する際に本人に断るなどプライバシー確保に留意している。また所在や様子等スタッフ間で連携し、把握し、安全に配慮している	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手の届かない所、見えない所、管理できる場所で保管する等の周知・徹底を図っている。	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ勉強会やマニュアルの取り決め、転倒防止の為の話し合い、また防火訓練や消火訓練を通じて事故防止に取り組んでいる。ホーム内は禁煙である。	1	防火管理者講習を今年度で常勤者は全員、非常勤者は半分受講済になり、防火に対する意識を高められると思う。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフミーティングで都度話し合い、看護師から習う等習熟を図っている。	0	
		73 外部 評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内のどこに居るかで避難経路が決められており、避難場所も確保されている。防火管理者が「夜間緊急マニュアル」を作成し、昼夜別々の誘導方法も決めている。近所への協力依頼も隣組にお願いしている。	0	
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時や面会時に利用者毎の対応策を家族に管理者・ケアマネージャーが説明し、スタッフ間で対応策を統一している。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75～81・外部 31)	自己評価 7項目・外部評価 1項目	1	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	些細な変化・サインを見逃さない見守り、また記録を録ることでスタッフが一様に気付くように徹底している。そして気付いたスタッフは看護師に報告、看護師から医師に報告し指示を仰ぐことにしている。またその事は指示の有無に関わらずケース記録したり、連絡ノートに記載する等周知徹底を図っている。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内服薬は看護師が確認し、スタッフが服用させている。使用している薬の目的・副作用、用法や用量については薬の説明書を各人のケース記録に添付し不明な点は看護師に確認する。また「薬辞典」で自己学習も促している。毎月のスタッフミーティングの場を利用して、新しい薬が処方された場合の勉強もその都度行っている。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者のケアプランに基づき便秘予防に努めている。また予防として十分な水分摂取・散歩（歩行）・繊維質の食材に多用するなど留意している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各自の歯の状態や能力に合わせた口腔ケア介助、義歯の装着の介助を行っている。また歯科受診に付き添って歯の状態維持や義歯の修理をしている。	0	
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は福祉食を利用し、調理している。食事摂取量・水分摂取量はチェック表に記録しており、スタッフは利用者の栄養摂取量把握に努めている。	0	
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、それに従って実行している	1	昨年の秋から今年春まで、感染症の発生を防ぐことが出来た。
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	かならず冷蔵庫に保管したり、食器・調理器具の乾燥機使用などを行っている。また、台所、調理器具等は毎日、隔日、週に1度等と消毒マニュアルがあり実行・記録している。	0	
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)		自己評価 8項目・外部評価 2項目	0	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)		自己評価 5項目・外部評価 2項目	0	
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	平屋造りで、周囲の風景に違和感を与えないような外観と考える。また生垣や低いフェンス、畑や広場など開放的な雰囲気作りを心がけている。	0	
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節の花を飾るように留意し、フロアには利用者の行事写真や日常写真を飾っている。利用者に不快な音は周囲が農地なので入って来ないし、非常口から見える風景で季節感も味わう事もできる。通り過ぎる風で気持ち良い空間になっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓用テーブルの配置や、ソファ、イス等で一人で過ごせるような配慮を常にしている。	0		
		85 外部評価33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	#REF!	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、換気の為に窓を開け、臭いが気になる利用者の部屋は特に換気に努め、洗剤、臭い消し、お茶がら等で対処している。各居室には温湿度計を設置、毎日部屋環境に留意している。また、加湿器、除湿機、清浄機などを用いている。冬期には洗濯物を夜間に干すなど乾燥しないよう特に注意している。	0	入居の時に、ご家族に家具や布団を選んで持参してもらっている。ご家族に任せている。	
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない平屋造りであり、ユニット内は直線になっており利用者の見守りが容易になっている。壁やトイレ、浴室には当然ではあるが手すりを設けている。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家族の協力で、居室内に家族写真を貼ったり、日めくりカレンダーを居室内、共用スペースに飾ったりしている。またトイレの表示、風呂の表示を大きくしている。部屋を間違えないように利用者の顔写真をドアに貼ったりもしている。新聞を読むことにより、社会への関心を持つよう、またテレビニュースも比較的視聴して話題にするなど配	0		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広場に歩いて行って外気浴・お茶・食事を楽しみ、また草取りをしたりと利用者が楽しめるよう配慮している。	0				

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	3		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	3		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	1	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。